

令和5年度 磐田市立豊岡南小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	目標値	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
進んで学ぼう	・主体的に考え、学びをよりよくする子に向けた授業改善 ・話し方、聴き方、対話の仕方の指導	授業の内容がよく分かる。	90	A	①進んで読書をする。 保護者:56.4% 児童:82.3% 保護者の数値が著しく低い。家庭での読書に改善が必要。家庭と連携して読書に取り組んでいくことができる手立てが必要なのではないか。 ②毎日、家庭学習に取り組む目安の時間(学年×10分+10分) 保護者:66.2% 家庭学習の量と質に改善が必要。家庭学習をどのように見取り、子供の意識を高めていくか。高学年であれば自主学習が探究的な学びになるようにどのように担任が投げかけていくかが重要となる。タブレットの活用と関連させ改善が求められる。 ③進んで自分の意見や考えを発言する。(設問5) 児童:76.0% 教師:73.3% 児童、教師とも数値が低い。発言する子が限定させてしまっていて、どの子も発言できるかに課題を感じている児童、教師が多いことがわかる。学習形態の工夫により、より多くの発言を引き出すことが可能となる。全体での発言ができなくてもペアやグループで発言することはできるであろう。さらに進んで(主体的に)話そうとしているかが重要となる。子供たちが考えたくなるめあて、課題設定が重要になるため、日々の教師の教材研究が欠かせないと感じる。	・読書に関しては多少強制力があってもよいのではないか。家庭学習とも関連付け、家庭学習の中に読書も含めて、親子で読んだものを家庭で一緒に書く活動があれば保護者も巻き込むことができる。だからこそ、来年度、朝の図書貸し出しには効果が期待でき、読書記録を紙媒体に戻すことにも賛成する。 ・(現在6年生が取り組んでいるような)タブレットを使ったプレゼンテーションを親としては見たい。そのようなプレゼンテーションを活用した発表をやれば、子どもの発言に対する自信が高まり、数値も向上するのではないか。
		進んで質問したり調べたりする。	80	A		
		進んで読書をする。	80	B		
		毎日、宿題や予習・復習の目玉学習、読書などの家庭学習に取り組んでいる。(学年×10分+10分)	85	A		
		進んで自分の意見や考えを発言する。	85	B		
		CPなどを使って自分の考えをまとめたりわかりやすく相手に伝えている。	85	A		
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	90	A				
思いやりのもの	・深い子供理解と支持的風土のある学級づくり ・挨拶の推進	学校が楽しいと感じている。	90	A	○ふわふわ言葉を使う。 保護者72.6% 児童:91.3% 家庭での言葉遣いに課題を感じている保護者が多い。学校でのふわふわ言葉の取り組みが家庭にも浸透していくような働きかけが必要となる。また、「ふわふわ言葉」が保護者に認識されているのかという課題もある。子どもが学校だけでなく、家庭でも自分の言葉遣いについて振り返る場が必要となる。子どもの言葉遣いについて家庭で話題にあがるような手立てを考えていくことも必要である。	・どうしても家族に対しては、厳しい言葉遣いになってしまい、子どもだけでなく、親や家族として子どもに対してふわふわ言葉を使うことができなかつたと感じる。しかし、家族との関わりを振り返ってみると、家庭の中で優しい言葉、温かい言葉を使っていく大切さを感じるため、家庭に浸透してほしいと願っている。
		進んであいさつをする。	85	A		
		「ふわふわ言葉」をつかっている。	85	B		
		学級(学校)は、互いにルールを守り、協力して生活している。	85	A		
		自分と異なる意見や考えを認めている。	90	A		
		学校に相談できる友達や先生がいる。	90	A		
元気づけよう	・月1回の「健康の日」を中心とした基本的生活習慣の向上 ・体育授業を要とした体力の向上	進んで運動に取り組んでいる。	85	B	①進んで運動する。(設問16) 児童:84% 保護者:76% 教師:73.3% 子供たちが進んで運動に取り組むことができる場の設定ができているか。1年を通じた見通しのある体育経営ができているか。体育的な行事の単発的な開催ではなく、1年を通してつながりのある開催方法を模索したい。そのためには毎年やっていることを繰り返していくのではなく、子どもたちの体力の課題を見極め、その課題に合った行事の精選、授業の構想が求められる。また、子どもの体力面での課題を常に意識させていくことも課題となる。 ②自分の体のことを考えて食べている。 児童:83.7% 保護者65.2% 教師:53.3% 学校全体での課題でもある。残食に対してどのように取り組み、それを保護者にどのように伝えていくかが重要となる。○週間だけでなく、継続的に1年を通して取り組んでいく必要がある。	・新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことにより、子どもの運動に関する取り組みが活性化されつつある。小学校が持久走に力を入れていくことが分かっているのであれば、幼稚園段階で持久走に取り組んでいきたいと思う。そのような幼稚園と小学校との連携を図っていきたい。 ・「体のことを考えて食べている」の教員の数値が低いのがどうしてか。おそらく給食で減らしたり、残したりする姿から評価しているのであろう。その姿は家庭とも異なる。家庭の様子や教員に伝わることも重要ではないか。
		早寝・早起きをしている。	80	A		
		自分の体のことを考えて食べている。	85	B		
		廊下や階段は右側を歩いている。	85	B		
		清掃に一生懸命取り組んでいる。	90	A		
その他	・児童について定期的に情報交換をする場の設定(ミニハートケア) ・地域人材の積極的活用	夢や目標に向かって頑張っている。	85	B	○夢や目標に向かって頑張っている。 保護者:80.1% 昨年度11月:82.6% 一昨年度12月:84.7% 徐々に数値が下がっている。児童の数値(90.3%)とも開きがある。児童がどのような目標をもち、その目標に向かってどのように取り組んでいるのかを保護者に伝わっていないのではないかと考える。年間を見通してどのような力をつけていくのかというねらいのもと、今はどの段階なのか、保護者への周知をより充実させていく必要がある。保護者への有効な周知方法としてホームページの活用が考えられる。誰がどのような方法で、更新していくのかを校内で協議し、来年度の有効な活用方法を検討していく。	・保護者と子どもとも数値に開きがあるのはよくあることである。教員はどうしても厳しく評価してしまう。だからこそよい方法でアピールしていくべきである。保護者へのアピールをどのように工夫していくかで数値も変化していくと考えられる。
		中学校での学習や生活を楽しみにしている。(6年)	90	A		
		先生は子供のことを理解して指導に当たっている。	90	A		
		農作物を育てる体験やひろせ学習を通して、地域の歴史や自然、産業について関心がある。	85	A		
		学校で目指そうとしている子どもの姿や教育内容について知っている。(保護者)	90	B		
		豊岡南小学校は、応援しがいい学校である。(保護者)	90	A		

学校関係者評価を受けてのまとめ

昨今の教育現場では子供に強制的に何かをさせる場面は少ない。しかし、それがいないために保護者や教員が求める子どもの姿に至らない現状がある。体育的行事が充実していた時は、その強制力もあり、子供の体力向上を望むことができた。だからこそ子どもの目標設定をどのようにしていくかが重要である。今できる範囲の中で、どのように子どもに目標をもたせていくか、見通しのある教育計画と教員の子どもに対する働きかけに期待したい。